

Certified Nurse 認定看護師 資格取得を後押し スキルアップを図る



橋本優子看護部次長（教育担当）

市立川西病院には現在、感染管理・糖尿病看護・皮膚排泄ケア・がん化学療法・緩和ケアの5分野で6人の「認定看護師」がいます。いわばスペシャリスト的な存在で、各分野のリーダーともいえる看護師です。「試験を受けさえすれば取得できるものではなく、実務経験や認定看護師教育機関での研修を必要とし、最終的には認定審査を受けなければなりません。簡単に手にするところの資格ではないですね」。橋本優子看護部次長はそう話します。

認定看護師制度は、医療の専門化や高度化から必要とされ生まれたもの。資格取得者には、質の高い看護の提供や後進への指導などが求められます。

高度化する医療に対応 ノウハウの共有に努める

「川西病院からは、毎年、選考されたスタッフ2〜3人が教育機関へと出向きます。資格取得後は、ノウハウを現場で実践するほか、周りにも得てきた知識を伝え、チーム全体のスキルの底上げを図っています。院内や地域で開催されるセミナーの講師を務めることもありますね」

教育機関での研修などに割く時間は約8カ月。短い期間ではありません。

「取得をめざす皆さんは一時職場を離れて、勉強に励みます。受講も無償ではありません。ですので、病院としては、バックアップする必要があります」

「川西病院からは、毎年、資格取得後の活動のサポートも行っていきます」

毎年、資格取得に手を挙げたスタッフは多いとのこと。

「自分や職場の看護の質を高めたいという職員が多いのかもしれないですね。行きやすい風土が育っているように感じます。川西病院は総合病院ですので専門分野の裾野が広く、自分の関心のある分野で資格取得をめざしやすいというのもあるでしょう。これからも、認定看護師が増加することで、病院全体のスキルの向上やサービスの充実が図れればと思いますね」



焼き芋とリンゴの包み焼き かわにし秋のスイーツセレクト①

おとな子どもも
食と育つ
健康づくり室
☎ (758) 4721

レシピ提供：工藤孝さん（鼓が滝3）

- 材料（4個分）
- 焼き芋（ふかし芋でも可）……………2本（約400g）
 - リンゴ（紅玉）……………1個
 - バター……………大さじ2
 - レーズン……………大さじ2
 - はちみつ……………大さじ2
 - マシュマロ……………4個

熱量（1人分）：263kcal

- 作り方
- 焼き芋は皮をむいて1等分の輪切りにする。
 - リンゴは皮をむいて4つ切に。芯を取り、薄切りにする。
 - アルミホイル（25×25cm）に小さじ1弱のバターを塗り、4分の1量の①②、レーズン、バター大さじ4分の1をちぎって乗せ、大さじ2分の1量のはちみつをかける。
 - 中央にマシュマロを乗せ、周りから軽く押さえつけるように包む（4つ作る）。
 - 厚手の鍋を熱し、④を並べ10分間蒸し焼きにする。

消費生活センターだより
消費生活センター
☎ (740) 1167

子どもの消費者トラブル

ゲームを購入？ クレジットカード会社から高額請求!!

Q. クレジットカード会社から身に覚えのない5万円の請求があった。

カード会社に問い合わせると小学生の息子がいつも遊んでいるゲーム機から使われていることが分かった。

ゲーム機を自宅のWi-Fiにつないで無料のゲームで遊ばせていたつもりだったが、息子を問いただしたところ、私のクレジットカードを勝手に使って有料のゲームを買っていた事が分かった。

友人や兄弟のゲーム機からも有料のゲームを購入していた。どうすればいいか。
(30歳代女性)

A. インターネットを使用できるのはパソコンやスマートフォンだけではありません。

携帯電話、ゲーム機、音楽プレーヤー、テレビなどでも使用することができます。

親が思っている以上に子どもは機器やインターネットに精通しています。

オンラインゲームに関する相談でも「親が知らない間に子どもが有料アイテムを購入し、無断で親のクレジットカードで決済してしまった」というトラブルが後を絶ちません。

親子でゲーム利用の仕方を普段からよく話し合っておきましょう。

また思わぬ高額請求を受けたくないよう、ロック機能などを十分に活用し、クレジットカードの番号を端末機器に登録している場合はIDの管理に注意しましょう。

人権啓発シリーズ
生きる
人権推進課
☎ (740) 1150

よく生き合おう！⑦

子どもに学ぶ 「3歳の童子といえども導師たり」

故・藤澤秀行さん（棋士）に「3歳の童子といえども導師たり」という格言があります。「3歳の子どもに学ぶ」謙虚さをなくすとき、人は傲慢になるとい意味です。母親に「お片付けしなさい！」と叱られた3歳の有希ちゃん、突然、「僕らはみんな生きている。生きているから怒られる」と歌いだしたといひます。やなせたかしさんの「手のひらを太陽に」の替え歌です。それは、谷川俊太郎さんの「生きる」という詩、「生きているということ／いま生きているということ／それはのどがかわくということ／木漏れ日がまぶしいということ／ふっと或るメロディを思い出すということ／くしゃみをする事／あなたと手をつなぐこと」に通じます。

金子みすゞさんの詩「ふしぎ」に「わたしはふしぎでたまらない／黒い雲からふる雨が、／銀にひかっていることが。(略)わたしはふしぎでたまらない／たれにきいてもわらって／あたりまえだ、ということが」とある。ふしぎという気持ちは「なぜ？」という疑問につながっています。「そのときだったんだ。そのとき、きみはもう、一人の子どもじゃなくて、一人のおとなになってたんだ。「なぜ」と元気がかえりかわりに、「そうなるんだ」という退屈なこたえで、どんな疑問もあっさり打ち消してしまうようになったとき。」（長田弘の詩集「深呼吸の必要」1984年晶文社）。いつまでも「ふしぎ」と「なぜ」を手放さないでいたいものです。（元岐阜大学教授藤田敬一）

【毎月第3金曜日は川西市の「人権デー」人権標語入賞作品「大丈夫？ その一言で ホットする」小学校5年生】

